

「ウチダザリガニ」モニタリング報告

はじめに

これまでの調査をしてきた曾原湖の4地点ではウチダザリガニが何らかの要因で個体数が減少してきている。観光協会のザリガニプログラムを開催している曲沢そばの沼での個体も小さくなっている。今年度は昨年に引き続きレイクウッド沼のウチダザリガニの調査・駆除を目的とした活動とした。

観光協会主催の「ウチダザリガニグランプリ」企画の中で児童・保護者参加で諸橋美術館脇「食堂モリモリ」さんの道路下駐車場にて砂川光朗講師による「特定外来生物ウチダザリガニって何？」を共催した。

長瀬川から土田堰へ流出、長瀬川から酢川合流前に猪苗代上と下2系に堰が流出する。秋元発電所手前に石切り場（今は操業していない）があり、長瀬川がそこで広く流れが緩やかになる。そこではウチダザリガニが棲息しているという情報をいただいている。また猪苗代の子供たちから49号線沿いの小川で見たという3人の話を聞いている。ウチダザリガニが長瀬川を經由して猪苗代地区へ入っていると思われる。前出の「食堂モリモリ」さんの浅瀬ではウチダザリガニは多数生息していることは確認されているので、裏磐梯浄化センター手前でクルミの森別荘地内南端にある別荘所有者の許可をいただいて調査した。

捕獲・調査日

6月8日 レイクウッド沼 水温19℃

捕獲方法 カニ籠 餌 カツオのあら 87匹

雄 39匹 平均 体長 7.25cm 胸一頭 1.66cm 欠損15匹

雌 48匹 平均 体長 6.74cm 胸一頭 1.43cm 欠損13匹 抱卵 1



脱皮したての柔らかいもの 8匹

*全体的に昨年より二回り小さい印象を持つ。

*かつてレイクウッド沼はアブラハヤなどの小魚が多くいましたがまったくいなくなり、小魚を狙ってカワセミなどの鳥もみかける機会が少なくなりました。籠にははいていませんでしたが、今期は少し小魚が戻ってきたというお話を聞きました。

8月21日

観光協会主催「ザリガニグランプリ」2日目午前中に諸橋美術館脇「食堂モリモリ」さんの長瀬川沿い道路下駐車場にて、砂川光朗講師による「特定外来生物ウチダザリガニって何？」ということで前日にかごを仕掛けて捕獲したウチダザリガニを子供たちに触って、良く観察してもらった。

捕獲数25匹



8月25日 クルミの森別荘地内 水温18℃

捕獲方法 カニ籠 餌 プリのあら 4匹

別荘所有の方の許可をいただいたの調査となりました。そこは魚釣りの方が勝手に入り込む場所のようで、前日の籠をかけた時に頭が傷だらけのイワナの個体と良くわからない魚をみかけました。

A 雌 体長13cm 頭一胸4.9cm 右はさみ欠損 *頭部大きい

B 雌 体長11.1cm 頭一胸4.3cm 左 2欠損

B 雄 体長13.5cm 頭一胸5.3cm 欠損なし *頭部大きい

C 雄 体長10.5cm 頭一胸4.2cm

全体的に黒く、固い殻をもつ。この地点で繁殖・棲息しているようには見えない流入してきた個体と思われる。



別荘地内を右から流れてこの地点で広がり、流れも穏やかになる。左手は裏磐梯浄化センター方向となる。手前は別荘地内寄りの小川の流出口となる



小川の流出口を少し入ったよどみ。
A地点として罎掛ける



小川の流出口より4mぐらい入ると草丈高くなる箇所に罎掛ける B地点
さらに奥4mぐらい入ると段差があり、流れが出てくる



10月 1日 レイクウッド沼 水温17℃

捕獲方法 カニ罎 餌 プリのあら 48匹

雄 34匹 平均体長 7.72cm 頭一胸 2.23cm 欠損6匹

雌 14匹 平均体長 7.75cm 頭一胸 2.07cm 欠損8匹

4cm~2.5cm 8匹 2.5cm~1.5cm 19匹 1.5cm 以下9匹

レイクウッド沼はコカナダモも繁殖しており、福島大学で駆除作業を予定しており、その前に籠をかけ駆除・調査をした。コカナダモに混入しているウチダザリガニはできるだけ回収した。小魚も多く回収した。



10月20日 レイクウッド沼 水温13℃

捕獲方法 カニ籠 餌 ぶりのアラ 58匹

雄 38匹 平均体長 8.51cm 頭一胸 3.19cm 欠損 2匹

雌 20匹 平均体長 7.10cm 頭一胸 2.7cm 欠損 3匹 抱卵 2匹



10月1日に駆除して積み上げられたコカナダモは乾いている。沼はコカナダモがなくなり透明度が増してきた。ウチダザリガニの生息場所としてどのように変化していくのか興味深い。小魚もかごに大量に入っていた。



上A 下B

抱卵していた2個体の卵の数を数えた

A 137個 一つずつがしっかりしている

B 162個 Aに較べると少し小さくピンセットで強く挟めない

考察

曾原湖でのウチダザリガニが減少した理由についてわからないことが多く、棲み分けが出来てきているのではということにしているが、実際はどうなのだろう。レイクウッド沼がコカナダモを駆除したので、どう変化していくのかを調査を継続していかなければいけない。小野川湖・桧原湖もどの程度少なくなってきたのかも再確認する必要がある。駆除活動を継続しながら、このモニタリングを始めたころのデータと比較し、裏磐梯のウチダザリガニの生息状況について把握することに努めたい。

調査者

真野 真理子 伊藤 延廣